

庭の未来へ

庭
NIWA

234
2019春

時代を映す空間
寺院の庭

01
大本山總持寺 祥雲閣庭園
石正園

02
実相院門跡 こころのお庭
御庭植治

03
大本山護国寺
本坊前庭、牡丹の間中庭
麻布植祐

04
天心山
神勝寺 賞心庭
中根庭園研究所

05
浮岳山昌樂院
深大寺 龜島弁財天池
ランドスキップ

06
靈鷲山感応院
極樂律寺
梅田園

07
高野寺
西海園芸

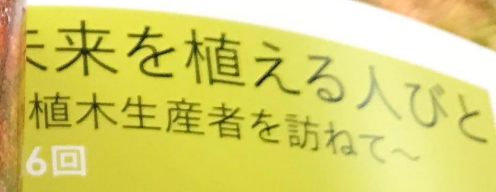
NIWA SPECIAL REPORT
伝統工法・版築がもたらす新しい“内装”
CONNECTION OFFICE
SUPPOSE DESIGN OFFICE. LANDSCAPE NIWATAN

SPECIAL REPORT OVERSEAS
ポートランド日本庭園

作庭に役立つ素材と技術
境界を考える
堀

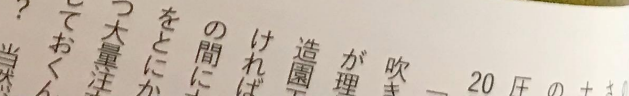
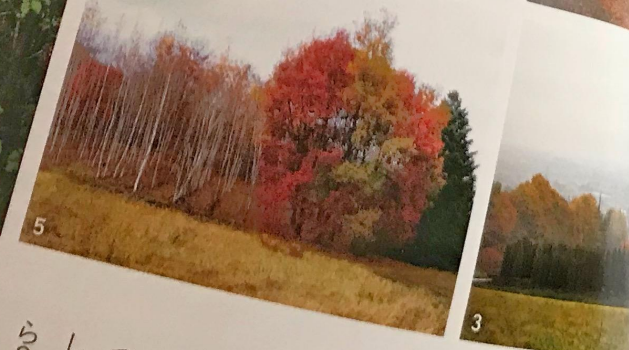
NIWA SPECIAL REPORT
持宝院
礼拝堂と三業の石据
N-tree、ラプアーキテクチャー

6-



安藤壽志

文=梶原博子



「カマツ」を呼ぶる一方だった。海外の貿易も盛んで、昭和40年代に入ると外材のカマツも輸入されてきた。昭和40年代に入って、こうした状況や自然保護運動によって、カマツの生産量は斜陽化していく。

苗産業は、3代目に当たる将志さんの父・善孝さんはカラマツに代わるものとして、緑化木の生産へと舵を切ったのである。折しも時は高度経済成長期、都市緑化、休養緑地の進展によって公共緑化樹木の需要が増え、安藤田圃は規模、在庫量共に全国でも10本の指に入るほどの緑化木生産家として成長を遂げた。

樹木を選べる

大量の在庫を持つのに
つ理由がある。「ここに森
んの樹木の中から選べる」
喜んでほしいからだ。父の
た畑は、少しずつ買戻し、
ニーズに答えるために、
の生産に当たる。多品



国藤 稔

庭のクニフジ

この庭は、国藤 稔氏の設計による。庭の中心には、大きな木があり、その周囲には、様々な植物が植えられている。庭の周囲には、木製のフェンスがあり、その外には、石の壁がある。庭の奥には、木製の建物があり、その周囲には、石の壁がある。庭の周囲には、木製のフェンスがあり、その外には、石の壁がある。庭の奥には、木製の建物があり、その周囲には、石の壁がある。

上=角地に
修。元